

受付番号	受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定
------	-----	----------	-----	----------	----

1. 名称（他のプログラムと容易に区別できること）

SMC JMU 大都市と地域で総合医を育てる後期研修プログラム

2. プログラム責任者

氏名	菅原 斉	指導医認定番号	2012-152
所属・役職	自治医科大学附属さいたま医療センター総合診療科長・准教授		
所在地・連絡先	住所 〒330-8503 埼玉県さいたま市大宮区天沼町1丁目847番地 電話 048-647-2111 FAX 048-648-5188 E-mail hsmdfacp@omiya.jichi.ac.jp		
連絡担当者氏名*・役職	菅原 斉 自治医科大学附属さいたま医療センター総合診療科長・准教授		
連絡先*	電話 048-647-2111 FAX 048-648-5188 E-mail hsmdfacp@omiya.jichi.ac.jp		

* プログラム責任者と別に連絡担当者がある場合にのみ記載

3. 後期研修医定員

1年あたり(3)名 (×研修期間年数=総定員 9名)

※総合診療専門研修ⅠおよびⅡにおいて、日本プライマリ・ケア連合学会専門医・認定医認定制度要綱28条に定める常勤指導医を、その部署で同時に研修する後期研修医3名に対して1名以上配置できる人数に留めること。例えば、総合診療専門研修Ⅰが9カ月の場合、3名ずつが9カ月毎にローテートするならば、3年=36カ月のプログラムで1年あたり最大4名(36÷9=4)まで受け入れ可能となる。

4. プログラムの期間

(3) 年間

受付番号	受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定
------	-----	----------	-----	----------	----

<p>5. 概要</p> <p>A. プログラムを展開する場や医療施設の地域背景や特長</p> <p>さいたま市は人口122万の大都市であり、将来の高齢者医療人口増加率は全国1位であるにもかかわらず、人口10万人当たりの医師数（148.2人）と病床数は、全国最下位である。このように全国的にも特色ある地域で、将来有望な家庭医療専門医を育成するために、総合診療専門研修Ⅰは12か月間とした。都市部とへき地とでの地域医療の両方を経験するために、総合診療専門研修Ⅰでは、さいたま市南部を中心に在宅医療で長年の実績があるハーモニークリニック、さいたま市の中心部に位置し急性期治療も担うJCHOさいたま北部医療センターと博仁会共済病院、埼玉県西部の山間部にある秩父市立病院と国保町立小鹿野中央病院、さらに新潟県南魚沼市立ゆきぐに大和病院の6医療機関と連携し、「SMC JMU大都市と地域で総合医を育てる後期研修プログラム」と命名した。</p> <p>SMCはSaitama Medical Center, JMUはJichi Medical Universityの略号で、SMC JMUは、自治医科大学附属さいたま医療センターを表す。</p>
<p>B. プログラムの理念、全体的な研修目標</p> <p>このプログラムのゴールは、患者、家族のマネジメントに必要な知識、技能、態度を身につけ、患者中心の医療を実現するために、多職種連携をはかり、地域完結型の医療の統合的実践ができる総合医になることである。これからの地域の総合医に求められるのは、医療・福祉・介護によるtotal management能力である。このプログラムの研修で、地域においては家庭医として、地域中核病院では病院勤務の地域総合医として、総合病院においては病院総合医としての役割を担うことができる足腰の強い総合医になることができるものと確信している。プログラム責任者の地域医療での経験から、整形外科（2ヶ月）、皮膚科（1ヶ月）、集中治療部（2ヶ月）の研修を必修とした。</p>
<p>C. 各ローテーション先で学べる内容や特色</p> <p>総合診療専門研修Ⅰ：地域に密着した一次医療機関での外来および入院、特に、小児から高齢者の生活習慣病などの慢性疾患、急性疾患、内科全般、ウイメンズヘルス、予防接種、健康診断などの研修に対応している。在宅診療も実践することで、地域包括ケアについて研修することができる。</p> <p>総合診療専門研修Ⅱ、内科研修、小児科研修、救急科研修、領域別研修は、初期臨床研修でも定評がある自治医科大学附属さいたま医療センターにおいて幅広い研修が可能である。また、同時に、日本内科学会の総合内科専門医の研修も視野に入れている。</p>
<p>D. 指導体制に関する特長</p> <p>カンファレンスでのディスカッションだけでなく、指導医との1対1でのディスカッションこそを研修医は望んでいるという気持ちで指導に当たる。自治医科大学附属さいたま医療センターでの研修中は、週1回の外来研修を継続し、その日のうちに、mini-Clinical Evaluation Exercise (mini-CEX)短縮版臨床評価表を用いて振り返りを行う。総合診療専門研修Ⅰでは、それぞれの特色がある地域において、地域医療を長年にわたって支えてきた指導医や上級医から、地域医療のエッセンスを学ぶ。ポートフォリオの作成を継続的に実施して、生涯学習の能力を身につけてもらう。総合診療専門研修Ⅰにおいても、診療後の多職種カンファレンス、在宅症例カンファレンス、外来症例カンファレンスや院外勉強会に参加するだけでなく、指導医と共に日々の振り返りを行う。</p>
<p>E. 医療関係職種、保健・福祉関係職種、地域の住民、医療機関の利用者などの協力を得る方法</p> <p>全ての研修施設には、MSWがおり、常時保健・福祉関係についていつでも相談できる体制である。リハビリスタッフも充実しており、リハビリ室において、患者のリハビリの進み具合を見ながら、在宅環境調整やADLの目標などを話し合うことが出来る。また、定期的に、看護師、リハビリスタッフ、MSWとの多職種カンファを行っている。個々の症例では、退院支援カンファレンスを開催し、ご家族、ケア・マネージャーやヘルパー、在宅診療医とともに、患者の生活を支えるための方策を考えるトレーニングを行う。</p>

受付番号	受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定
------	-----	----------	-----	----------	----

F. その他

総合診療専門研修Ⅱの研修中に、総合診療専門研修Ⅰの医療機関を訪問し、研修先医療機関を選択する。自治医科大学附属さいたま医療センターでの研修中は、週1日を限度に、興味有る診療科での領域別研修を実施することが可能である。また、原則として、研修先医療機関での身分と給与が保障されている。

G. モデルとなるローテーション例

1年目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	総診Ⅱ	総診Ⅱ	総診Ⅱ	救急	救急	救急	総診Ⅰ	総診Ⅰ	総診Ⅰ	総診Ⅰ	総診Ⅰ	総診Ⅰ
2年目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	内科	内科	内科	小児科	小児科	小児科	その他	その他	その他	その他	その他	その他
3年目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	総診Ⅰ	総診Ⅰ	総診Ⅰ	総診Ⅰ	総診Ⅰ	総診Ⅰ	内科	内科	内科	総診Ⅱ	総診Ⅱ	総診Ⅱ

※「総診Ⅰ」、「総診Ⅱ」、「内科」、「小児科」、「救急」、「その他」という表記で記入してください。

H. プログラムの全体構成（月単位の換算による）

総合診療 専門研修	総合診療専門研修Ⅰ (12) カ月		総合診療専門研修Ⅱ (6) カ月	
領域別 研修	内科 (6) カ月	小児科 (3) カ月	救急科 (3) カ月	その他 (6) カ月

※救急科が兼任研修の場合の記載法：例えば内科8カ月、小児科4カ月の間週1回救急科研修したら、内科6カ月、小児科3カ月、救急科3カ月というふうに、本来の研修先の研修期間（この場合内科+小児科の12カ月）のうち救急科研修の期間をプログラムに必要な長さにとり、本来の研修先の研修期間（内科8カ月と小児科4カ月）は救急科研修の期間を減じた形（内科は8→6カ月、小児科は4→3カ月）で記載して下さい。

受付番号	受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定
------	-----	----------	-----	----------	----

6-1. 総合診療専門研修 I					
研修施設名 1	ハーモニークリニック		診療科名 ()		
施設情報	<input checked="" type="checkbox"/> 診療所 <input type="checkbox"/> 病院		施設が病院のとき → 病院病床数 () 床 診療科病床数 () 床		
総合診療専門研修 I における研修期間		(6-12) カ月			
研修期間の分割	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり				
※同一施設で3カ月以上ずつの2ブロックに分けることのみ可能。 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい。					
指導医氏名 1	大和 康彦	<input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	(2013-74)	
指導医氏名 2	中井 秀一	<input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	(2013-95)	
指導医氏名 3	市川 聡子	<input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	(2013-14)	
※常勤指導医を確保できない場合、指導医の特例についての申請書が必要 (審査有)					
要件 (各項目の全てを満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす (<input checked="" type="checkbox"/> のように))					
ケアの内容					
<input checked="" type="checkbox"/> 外来診療：生活習慣病，患者教育，心理社会的問題，認知症を含めた高齢者ケアなど <input checked="" type="checkbox"/> 訪問診療：在宅ケア，介護施設との連携などを経験し在宅緩和ケアにも従事 <input checked="" type="checkbox"/> 地域包括ケア：学校医，地域保健活動などに参加					
施設要件					
<input checked="" type="checkbox"/> 患者層：研修医の経験する症例は，学童期以下が5%以上，後期高齢者が10%以上である。 <input type="checkbox"/> 上記の要件を満たさないが，他の方法で研修を補完している。(※小児科を有する病院で実施するプログラムは基本的に記載要) 具体的な補完方法 ()					
<input checked="" type="checkbox"/> アクセスの担保：24時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている。 具体的な体制と方略 (在宅医療を提供している患者に，24時間365日，当番制で電話相談，臨時往診などの対応を行っている。外来患者においては24時間365日電話で相談ができるようになっている。)					
<input checked="" type="checkbox"/> 継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する。 具体的な体制と方略 (研修医は在宅および通院患者の一定数を主治医として受け持ち，継続的に診療する。)					
<input checked="" type="checkbox"/> 包括的なケア：一施設で急性期，慢性期，予防・健康増進，緩和ケアなどを幅広く担当する。 具体的な体制と方略 (外来，在宅で急性期，慢性期疾患の対応を行う。外来における生活習慣病対応，健康診断，予防接種など予防・健康増進ケアを行う。在宅緩和ケアの対象患者を定期的に診療する。)					
<input checked="" type="checkbox"/> 多様なサービスとの連携：必要な医療機関，介護・福祉機関などと適切に連携する。 具体的な体制と方略 (病院からの紹介患者，在宅医療を要する患者などに対して，訪問看護ステーション，ケア・マネージャーなどと多職種連携を行い，適切な医療，介護を提供する。当方から紹介が必要な場合は，近隣の高次機能病院に紹介，直接病院を訪問し連携を行う。)					
<input checked="" type="checkbox"/> 家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する。 具体的な状況 (通院患者の子供の感冒，予防接種の相談を受ける。通院患者の両親の具合が悪くなり，介護保険の相談，在宅医療の導入の相談を受ける。高齢者の付き添いの家族に生じた問題に対応する。在宅患者を介護する家族に生じた問題に対応する，といった同一家族の様々な年齢層に対応する場面が日常的に経験できる。)					
<input checked="" type="checkbox"/> 地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する。 具体的な内容と方法 (院内広報誌の，健康講座の記載を行い，未受診の地域住民にアプローチできる。住民むけに健康教室の開催を検討する。)					
<input checked="" type="checkbox"/> 在宅医療：訪問診療の体制をとっている。患者の急変，緩和ケアに対応している。 それぞれの概ねの頻度 (現在約250人の在宅患者に，24時間365日体制で対応，往診，電話，訪問看護師等との連携で急変，緩和ケアに対応している。頻度は，訪問診療月約189名，緊急往診年間約32名，在宅看取り年間約55人。)					
週当たり研修日数：(5) 日					
総合診療専門研修 I の研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる研修内容とその日数					
内容	整形外科，皮膚科，産婦人科，超音波，上部消化管内視鏡などプライマリ・ケアに必要なと思われる領域の研修。院内専門診療科または，院外病院にて可能。				
日数	1日/週				

受付番号	受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定
------	-----	----------	-----	----------	----

6-1. 総合診療専門研修 I					
研修施設名 2	JCHO さいたま北部医療センター		診療科名 (内科)		
施設情報	<input type="checkbox"/> 診療所 <input checked="" type="checkbox"/> 病院		施設が病院のとき → 病院病床数 (163) 床 診療科病床数 (56) 床		
総合診療専門研修 I における研修期間		(6-12) カ月			
研修期間の分割	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり				
※同一施設で3カ月以上ずつの2ブロックに分けることのみ可能。 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい。					
指導医氏名 1	宗像 博美	<input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	(2013-145)	
指導医氏名 2	黒田 豊	<input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	(2013-560)	
指導医氏名 3	松本 都	<input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	(2013-427)	
※常勤指導医を確保できない場合、指導医の特例についての申請書が必要 (審査有)					
要件 (各項目の全てを満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす (<input checked="" type="checkbox"/> のように))					
ケアの内容					
<ul style="list-style-type: none"> ■外来診療：生活習慣病，患者教育，心理社会的問題，認知症を含めた高齢者ケアなど ■訪問診療：在宅ケア，介護施設との連携などを経験し在宅緩和ケアにも従事 ■地域包括ケア：学校医，地域保健活動などに参加 					
施設要件					
<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 患者層：研修医の経験する症例は，学童期以下が5%以上，後期高齢者が10%以上である。 ■上記の要件を満たさないが，他の方法で研修を補完している。(※小児科を有する病院で実施するプログラムは基本的に記載要) 具体的な補完方法 (当センターはさいたま市の委託事業として小児休日夜間急患センターを開設し365日小児の時間外初期救急医療を実践している。小児初期救急患者数は年間2万人を超え、一日平均約58人であり、さいたま市内小児初期急患の約53%を診療している。学童以下の研修に関しては、この小児休日夜間急患センターにおける研修を週間スケジュールの中に組み込み小児初期急患に関する研修を行う事によって補完する。) ■アクセスの担保：24時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている。 具体的な体制と方略 (在宅医療を行提供している患者に対しては、24時間365日、相談や往診の体対応を行っている。継続治療を行っている外来患者に対しては同じく24時間365日救急外来を開設しており急変時の対応を行っている。) ■継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する。 具体的な体制と方略 (研修医は在宅および通院患者の一定数を主治医として受け持ち継続的に診療する。) ■包括的なケア：一施設で急性期，慢性期，予防・健康増進，緩和ケアなどを幅広く担当。 具体的な体制と方略 (救急外来で急性期患者の診療をし、必要に応じて入院の受け持ちとして対応し、退院後も継続外来や在宅診療での慢性期医療を継続的に提供する。更に併設する健康管理センターで健康診断や保健予防指導を担当し健康増進について学ぶ。また入院緩和ケアや在宅緩和ケアの対象患者を受け持ちとして担当する。) ■多様なサービスとの連携：必要な医療機関，介護・福祉機関などと適切に連携する。 具体的な体制と方略 (近隣開業医からの紹介患者や、介護・福祉施設からの紹介患者を適切にマネジメントし、適切な医療を提供するとともに、医療ソーシャルワーカーと共同で退院後の生活をサポートする方策を検討している。) ■家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する。 具体的な状況 (在宅医療を提供している高齢者には孫にあたる小児の問題も発生することが有り、逆に小児科を受診する小児の問題の背景に高齢者の問題が存在することもある。同一施設で小児科と総合診療を学ぶことにより、小児から高齢者まで幅広く診療する能力を身に着けることができる。) ■地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する。 具体的な内容と方法 (地域住民対象の健康教室を研修医が積極的に担当することにより集団的アプローチの方策を身に着けることができる。) ■在宅医療：訪問診療の体制をとっている。患者の急変，緩和ケアに対応している。 それぞれの概ねの頻度 (訪問介護ステーションと協働で24時間365日、患者の急変，緩和ケアに対応する体制を整えており、指導医3名とも訪問診療に従事しており充実した研修を受けることができる。) 					
週当たり研修日数：(5) 日					
総合診療専門研修 I の研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる研修内容とその日数					
内容	さいたま北部医療センター内の小児休日夜間急患センターにおける小児科研修				
日数	0.5 日/週				

受付番号	受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定
------	-----	----------	-----	----------	----

6-1. 総合診療専門研修 I					
研修施設名 3	医療法人博仁会 共済病院	診療科名 (内科)			
施設情報	<input type="checkbox"/> 診療所 <input checked="" type="checkbox"/> 病院	施設が病院のとき → 病院病床数 (117) 床 診療科病床数 (40) 床			
総合診療専門研修 I における研修期間		(6-12) カ月			
研修期間の分割	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり				
※同一施設で3カ月以上ずつの2ブロックに分けることのみ可能。 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい。					
指導医氏名 1	本松 茂	<input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	(2013-787)	
指導医氏名 2	田代 友之	<input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	(2013-686)	
指導医氏名 3	仲 公正	<input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	(2014-0497)	
※常勤指導医を確保できない場合、指導医の特例についての申請書が必要 (審査有)					
要件 (各項目の全てを満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす (<input checked="" type="checkbox"/> のように))					
ケアの内容					
<ul style="list-style-type: none"> ■外来診療：生活習慣病，患者教育，心理社会的問題，認知症を含めた高齢者ケアなど ■訪問診療：在宅ケア，介護施設との連携などを経験し在宅緩和ケアにも従事 ■地域包括ケア：学校医，地域保健活動などに参加 					
施設要件					
<input type="checkbox"/> 患者層：研修医の経験する症例は，学童期以下が5%以上，後期高齢者が10%以上である。					
<ul style="list-style-type: none"> ■上記の要件を満たさないが，他の方法で研修を補完している。(※小児科を有する病院で実施するプログラムは基本的に記載要) 具体的な補完方法 (後期高齢者は10%以上である，公的病院および開業小児科診療所での小児科研修を行う。) ■アクセスの担保：24時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている。 具体的な体制と方略 (在宅医療を行っている患者および外来通院中の患者に対し，24時間，365日，電話対応および救急対応を行っている。また救急告示病院として救急搬送も受けている。) ■継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する。 具体的な体制と方略 (外来診療・入院診療・在宅診療の一定数を受け持つ。また，治療・ケアに関する多職種間の中心的役割を担い，多職種間の調整を行うことで，診療方針やケア方針を立案することができる。) ■包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当。 具体的な体制と方略 (一般外来では生活習慣病などの慢性疾患患者および急性期患者の診療を行い，また救急外来で急性期患者を診療する。入院となった場合は担当医となり，当該患者の退院後は外来・在宅での継続治療を担当する。当院の健診センターでの個別健康診断・指導を担当し，かつ集団に対する健康啓蒙活動の講師として保健予防指導を担当する。また，入院・外来・在宅でのがん緩和ケア患者の受け持ち医となる。) ■多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する。 具体的な体制と方略 (基幹病院や近隣開業医、介護施設からの紹介患者の治療を行いながら、ケア・マネージャー・訪問看護師・リハビリスタッフ・居宅サービススタッフ・訪問診療医などと定期的にカンファランスを行うことで、治療後の生活を想定し、治療のゴールを考える。また、医師中心の画一的な治療に陥ることなく、適切なサポートを提供する。) ■家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する。 具体的な状況 (地域に根ざした病院であり、家族ぐるみでかかりつけになっている患者が多く、また当院医療相談室のサポートもあり、具体的な患者の家族構成および役割を把握しながら、家族的アプローチを行う。) ■地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する。 具体的な内容と方法 (小児を含めた予防接種、住民健診・企業検診に携わる。また、病院フロアで定期的に地域住民に健康学習を行っているが、その講師となり集団的アプローチの具体的な技法を習得する。) ■在宅医療：訪問診療の体制をとっている。患者の急変、緩和ケアに対応している。 それぞれの概ねの頻度 (強化型在宅療養支援診療所になっており、3名の指導医および非常勤医師1名が訪問診療を担当している。在宅看取りにも対応しており、24時間、365日、急変・緩和ケアに対応しているため、充実した研修が受けられる。) 					
週当たり研修日数：(5) 日					
総合診療専門研修 I の研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる研修内容とその日数					
内容	公的病院および開業小児科診療所での小児科研修				
日数	0.5日/週				

受付番号	受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定
------	-----	----------	-----	----------	----

6-1. 総合診療専門研修 I					
研修施設名 4	秩父市立病院		診療科名 (内科)		
施設情報	<input type="checkbox"/> 診療所 <input checked="" type="checkbox"/> 病院		施設が病院のとき → 病院病床数 (165) 床 診療科病床数 (135) 床		
総合診療専門研修 I における研修期間		(6-12) カ月			
研修期間の分割	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり				
※同一施設で3カ月以上ずつの2ブロックに分けることのみ可能。 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい。					
指導医氏名 1	瀬戸山敏幸	<input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	(2014-0487)	
指導医氏名 2	神山英範	<input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	(2013-138)	
指導医氏名 3	小林恵子	<input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	(2014-0418)	
※常勤指導医を確保できない場合、 <u>指導医の特例についての申請書</u> が必要 (審査有)					
要件 (各項目の全てを満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす (<input checked="" type="checkbox"/> のように))					
ケアの内容					
<ul style="list-style-type: none"> ■外来診療：生活習慣病，患者教育，心理社会的問題，認知症を含めた高齢者ケアなど ■訪問診療：在宅ケア，介護施設との連携などを経験し在宅緩和ケアにも従事 ■地域包括ケア：学校医，地域保健活動などに参加 					
施設要件					
<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>患者層：研修医の経験する症例は，学童期以下が5%以上，後期高齢者が10%以上である。 <input checked="" type="checkbox"/>上記の要件を満たさないが，他の方法で研修を補完している。(※小児科を有する病院で実施するプログラムは基本的に記載要) 具体的な補完方法 (後期高齢者は10%以上である。当院小児科もしくは開業小児科診療所での小児科研修を行う。) <input checked="" type="checkbox"/>アクセスの担保：24時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている。 具体的な体制と方略 (在宅医療を行っている患者および外来通院中の患者に対し，24時間，365日，電話対応および救急対応を行っている。また夜間・休日の2次救急病院として地域の救急医療を中心となって担っている。) <input checked="" type="checkbox"/>継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する。 具体的な体制と方略 (研修医は在宅および通院患者の一定数を主治医として受け持ち継続的に診療する。) <input checked="" type="checkbox"/>包括的なケア：一施設で急性期，慢性期，予防・健康増進，緩和ケアなどを幅広く担当。 具体的な体制と方略 (一般外来・救急外来での急性期患者を診療し，入院となった場合は担当医となる。外来における生活習慣病対応，健康診断，予防接種など予防・健康増進ケアを行う。担当患者の退院後は外来・在宅での継続治療を担当する。) <input checked="" type="checkbox"/>多様なサービスとの連携：必要な医療機関，介護・福祉機関などと適切に連携する。 具体的な体制と方略 (病院からの紹介患者，在宅医療を要する患者などに対して，訪問看護ステーション，ケア・マネージャーの方と連携し，医療，介護を提供する。高次・専門医療を必要とする場合，近隣の高次医療機関に紹介する。) <input checked="" type="checkbox"/>家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する。 具体的な状況 (患者の子供の感冒，予防接種の相談を受ける。患者の両親の具合が悪くなり，介護保険の相談，在宅医についての相談を受ける。高齢者の付き添いの家族に生じた問題に対応する。在宅患者を介護する家族に生じた問題に対応する，といった様々な年齢層の同一家族の構成員の問題に対応する状況に遭遇する。) <input checked="" type="checkbox"/>地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する。 具体的な内容と方法 (月1回，当院の糖尿病療養管理士が中心となって受診していない地域住民への糖尿病教室を行っており，参加することができる。) <input checked="" type="checkbox"/>在宅医療：訪問診療の体制をとっている。患者の急変，緩和ケアに対応している。 それぞれの概ねの頻度 (当院では終末期に一時退院を希望する患者に対して限定的ではあるが，往診，訪問診療を実施している。まとまった期間，在宅緩和ケアを必要とする患者は，開業医の先生と併診している。自宅療養を継続できない理由となる難治性症状が出現した際，急変など容態変化の際に，入院での症状緩和を担当している。) 					
週当たり研修日数：(5) 日					
総合診療専門研修 I の研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる研修内容とその日数					
内容	当院または開業小児科診療所での小児科研修				
日数	1日/週				

受付番号		受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定	
------	--	-----	----------	-----	----------	----	--

6-1. 総合診療専門研修 I			
研修施設名 5	国保町立小鹿野中央病院	診療科名 (総合内科)	
施設情報	<input type="checkbox"/> 診療所 <input checked="" type="checkbox"/> 病院	施設が病院のとき → 病院病床数 (95) 床 診療科病床数 (約 60) 床	
総合診療専門研修 I における研修期間		(6-12) カ月	
研修期間の分割	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり		
※同一施設で3カ月以上ずつの2ブロックに分けることのみ可能。 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい。			
指導医氏名 1	関口哲夫	<input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号 (2013-235)
指導医氏名 2		<input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号 ()
指導医氏名 3		<input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号 ()
※常勤指導医を確保できない場合、指導医の特例についての申請書が必要 (審査有)			
要件 (各項目の全てを満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす (<input checked="" type="checkbox"/> のように))			
ケアの内容			
<ul style="list-style-type: none"> ■外来診療：生活習慣病，患者教育，心理社会的問題，認知症を含めた高齢者ケアなど ■訪問診療：在宅ケア，介護施設との連携などを経験し在宅緩和ケアにも従事 ■地域包括ケア：学校医，地域保健活動などに参加 			
施設要件			
<input type="checkbox"/> 患者層：研修医の経験する症例は，学童期以下が5%以上，後期高齢者が10%以上である。 <input checked="" type="checkbox"/> 上記の要件を満たさないが，他の方法で研修を補完している。(※小児科を有する病院で実施するプログラムは基本的に記載要) 具体的な補完方法 (小児に関しては，時間外診療，健診，予防接種，院外研修で対応する。)			
<input checked="" type="checkbox"/> アクセスの担保：24時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている。 具体的な体制と方略 (電話による情報収集，トリアージ，対応可能な事例は受け入れる。)			
<input checked="" type="checkbox"/> 継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する。 具体的な体制と方略 (病棟および外来を担当し，担当患者の在宅診療も行う。)			
<input checked="" type="checkbox"/> 包括的なケア：プライマリ・ケア，亜急性期，慢性期，予防・健康増進，緩和ケアなど幅広く対応している。 具体的な体制と方略 (保健・福祉，介護部門が病院に併設されており，行政と連携して地域包括ケアシステムを推進している。毎週の緩和ケア会議，隔週の地域包括ケア会議やケア会議，また，在宅支援のための担当者会議，事例検討会等，多職種との連携による意見交換会が院内で頻繁に行われている。他職種と同行しての業務体験で，ケアに関連した多職種との相互理解が期待される。多くの情報により患者さんの背景や希望に沿った支援が実践できる。介護予防，健康増進の取り組みにも参加できる。)			
<input checked="" type="checkbox"/> 多様なサービスとの連携：必要な医療機関，介護・福祉機関などと適切に連携する。 具体的な体制と方略 (当院では，保健福祉課を病院内に併設して，連携している。)			
<input checked="" type="checkbox"/> 家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する。 具体的な状況 (町外の医療機関へのアクセスが不便なため，家族ぐるみで受診する機会が多い。)			
<input checked="" type="checkbox"/> 地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する。 具体的な内容と方法 (保健課や地域の診療所の医師と連携して，地域の問題への対応を試みている。)			
<input checked="" type="checkbox"/> 在宅医療：訪問診療の体制をとっている。患者の急変，緩和ケアに対応している。 それぞれの概ねの頻度 (緩和ケアを行っている在宅患者さんへの訪問診療が約3-10名。そのほか，施設への訪問，在宅との中間的な診療所での診療，通常の訪問診療等で約100名以上が対象となる。また，急変時等の特別入院として，24時間対応で入院を受け入れている。)			
週当たり研修日数：(4.5) 日			
総合診療専門研修 I の研修期間中に週 1 回などのペースで並行して行われる研修内容とその日数			
内容	近隣医療機関での小児科研修および関心領域		
日数	1日/週		

受付番号	受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定
------	-----	----------	-----	----------	----

6-1. 総合診療専門研修 I					
研修施設名 6	南魚沼市立ゆきぐに大和病院	診療科名 (内科)			
施設情報	<input type="checkbox"/> 診療所 <input checked="" type="checkbox"/> 病院	施設が病院のとき → 病院病床数 (199) 床 診療科病床数 (50) 床			
総合診療専門研修 I における研修期間		(6-12) カ月			
研修期間の分割	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり				
※同一施設で3カ月以上ずつの2ブロックに分けることのみ可能。 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい。					
指導医氏名 1	大西 康史	<input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	(第 2013-179 号)	
指導医氏名 2		<input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	()	
指導医氏名 3		<input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	()	
※常勤指導医を確保できない場合、 <u>指導医の特例についての申請書</u> が必要 (審査有)					
要件 (各項目の全てを満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす (<input checked="" type="checkbox"/> のように))					
ケアの内容					
<ul style="list-style-type: none"> ■外来診療：生活習慣病，患者教育，心理社会的問題，認知症を含めた高齢者ケアなど ■訪問診療：在宅ケア，介護施設との連携などを経験し在宅緩和ケアにも従事 ■地域包括ケア：学校医，地域保健活動などに参加 					
施設要件					
<input type="checkbox"/> 患者層：研修医の経験する症例は，学童期以下が5%以上，後期高齢者が10%以上である。					
<ul style="list-style-type: none"> ■上記の要件を満たさないが，他の方法で研修を補完している。(※小児科を有する病院で実施するプログラムは基本的に記載要) 具体的な補完方法 (受診患者総数のうち，後期高齢者は10%以上である。なお，小児患者に関しては小児科 (非常勤医) 外来にての研修を実施する。) ■アクセスの担保：24時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている。 具体的な体制と方略 (日勤帯では外来看護師が窓口となり，また夜勤帯では当直看護師が窓口となり，24時間体制での相談，必要時には受診にての対応が保障されている。) ■継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する。 具体的な体制と方略 (外来は予約制をとっており，研修期間は主治医として継続的な診療を行うことになる。また外来から訪問診療に移行する際も主治医の継続は可能である。) ■包括的なケア：一施設で急性期，慢性期，予防・健康増進，緩和ケアなどを幅広く担当。 具体的な体制と方略 (外来診療で一次救急，慢性期医療，予防・健康増進活動に従事し，在宅医療および病棟医療で緩和ケアに従事する。) ■多様なサービスとの連携：必要な医療機関，介護・福祉機関などと適切に連携する。 具体的な体制と方略 (当院は訪問看護ステーション，居宅介護支援事業所が併設されており，日常的に主治医との密な連携が行われている。また他の事業者とも当院の地域医療連携室を介して，必要な情報交換が行われている。) ■家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する。 具体的な状況 (様々な年齢層を含む同一家族を外来で診療する，また外来診療を行っている人の親に在宅医療を実施するなどの経験が可能である。) ■地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する。 具体的な内容与方法 (住民健診や地域の方の人間ドックにての内科診察や結果説明を行い，必要とされる受診者には医療機関受診を指示する。また学校検診などにも参加する。) ■在宅医療：訪問診療の体制をとっている。患者の急変，緩和ケアに対応している。 それぞれの概ねの頻度 (当院では受診が困難な患者に対しては訪問診療を実施し，がんの終末期など，緩和ケアを必要とする患者を，場合によってはみとりまで担当医として経験する。また，急変など容態の変化の際には，夜間帯であっても入院可能な体制をとっている。) 					
週当たり研修日数：(5.5) 日					
総合診療専門研修 I の研修期間中に週 1 回などのペースで並行して行われる研修内容とその日数					
内容	地域小児科の研修を実施する				
日数	0.5 日/週				

6-2. 総合診療専門研修 II

受付番号	受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定
------	-----	----------	-----	----------	----

研修施設名 1	自治医科大学附属さいたま医療センター	診療科名 (総合診療科)
施設情報	病院病床数 (608) 床	診療科病床数 (19) 床
総合診療専門研修Ⅱにおける研修期間	(6) カ月	
研修期間の分割	□なし ■あり (モデルのローテーション例に示したように、3年間の研修開始時点の3か月間に研修開始のオリエンテーションを含めた研修、3年間の研修終了前の3か月間に研修のまとめと評価を含めた研修を実施する。)	
指導医氏名 1	菅原 斉	■常勤 □非常勤 指導医認定番号 (2012-152)
指導医氏名 2	尾本 きよか	■常勤 □非常勤 指導医認定番号 (99-111)
指導医氏名 3	石井 彰	■常勤 □非常勤 指導医認定番号 (2014-0031)
指導医氏名 4	渡辺 珠美	■常勤 □非常勤 指導医認定番号 (2013-443)
指導医氏名 5	松本 葉子	■常勤 □非常勤 指導医認定番号 (2014-0039)
指導医氏名 6	松林 洋志	■常勤 □非常勤 指導医認定番号 (2014-0914)
※常勤指導医を確保できない場合、 <u>指導医の特例についての申請書</u> が必要 (審査有)		
要件 (各項目の全てを満たすとき、□を塗りつぶす (■のように))		
ケアの内容		
■病棟診療: 病棟は臓器別ではない。主として成人・高齢入院患者や複数の健康問題 (心理・社会・倫理的問題を含む) を抱える患者の包括ケア、緩和ケアなどを経験する。		
■外来診療: 臓器別ではない外来で、救急も含む初診を数多く経験し、複数の健康問題をもつ患者への包括的ケアを経験する。		
施設要件		
■一般病床を有する		
■救急医療を提供している		
病棟診療 : 以下の全てを行っていること		
■高齢者 (特に虚弱) ケア 具体的な体制と方略 (総合診療科病床は臓器別ではない。入院患者の約5割、外来患者の約3割が高齢者である。要介護者、虚弱高齢者、複合的な疾患を抱えた高齢者の入院が多い。入院後には可及的早期にリハビリテーション導入し、多職種カンファランスで様々な情報を共有し、よりよいケアを追及・実践する取り組みを行っている。)		
■複数の健康問題を抱える患者への対応 具体的な体制と方略 (複数の問題を抱える患者に対しては、当科が主治医機能を発揮しながら、他科や他院、また、退院後を見据えた場合には介護担当者と連携して、症候の克服やよりよい療養環境になるようなマネジメントを行っている。)		
■必要に応じた専門医との連携 具体的な体制と方略 (救急部からの入院患者が約6割を占めている。専門診療科のコンサルテーションは、カンファレンスだけでなく、適時当番医への相談を行っている。大講座性のため診療科間の垣根は低い。標榜科にはない精神科へも週1回のコンサルテーションが可能である。また、NST、感染対策チーム、緩和ケアチーム、ラピッドリスポンsteamなどへの相談も可能である。このように、院内の各専門医・専門科に随時相談をして、より良いマネジメントを選択している。)		
■心理・社会・倫理的複雑事例への対応 具体的な体制と方略 (総合相談室や倫理委員会が整備されている。毎週金曜日に多職種 (医師・病棟看護師・退院支援看護師・PT・OT・ST・MSW・薬剤師・臨床心理士) カンファランスを行っている。またご本人やご家族とインフォームド・コンセントを実施するように、随時対応している。)		
■癌・非癌患者の緩和ケア 具体的な体制と方略 (必要に応じて多職種による緩和ケアチームや臨床心理士に相談しながら、疼痛緩和やご本人のQOLの向上を目指して取り組んでいる。自宅近くの医療機関へ転院し、住み慣れた環境の近くでの療養を勧めることも多い。)		
■退院支援と地域連携機能の提供 具体的な体制と方略 (院内の総合相談室による退院調整や近隣の医療機関、訪問看護ステーションや在宅支援センターとの連携を行っている。またご本人・ご家族、ケア・マネージャーとの退院支援カンファランスを随時行っている。)		
■在宅患者の入院時対応 具体的な体制 (救急部とも連携し、状況に応じて在宅療養者の入院を受け入れ、在宅主治医、ケア・マネージャーとの連絡を調整している。)		
外来診療 : 以下の診療全てを行っていること		
■救急外来及び初診外来		

受付番号		受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定	
------	--	-----	----------	-----	----------	----	--

<p>具体的な体制と方略（救急外来は一般外来の診療時間を含めて、必要があれば当科で対応している。担当した患者の振り返りを指導医と共に夕方に実施する。救急部の年間搬送件数は約6000件である。総合診療科入院患者の6割を救急部から受け入れている。総合診療科の初診外来は、基本的に平日に受け付けている。また、各曜日に外部医療機関からの緊急入院の相談を受ける緊急当番医を配している。）</p>	
■臓器別ではない外来で幅広く多くの初診患者	<p>具体的な体制と方略（総合診療科外来では臓器を特定できない症候や複合的な疾患のある有訴者に対し、随時対応している。特に、複数の健康問題を抱える患者、不明熱、他の医療機関で診断がつかない患者、原発不明癌の患者などを診療している。）</p>
■よくある症候と疾患	<p>具体的な体制と方略（発熱、疼痛、めまい、食欲不振、浮腫、リンパ節腫脹、動機、倦怠感など総合診療科外来のほとんどの患者が頻度の高い症候を訴え来院し、その診察・精査を行っている。疾患は多岐にわたっているが、ほとんどの症例で何らかの診断がついている。また、老化に伴う複数の健康問題を抱える高齢者を診療する機会も多い。必要に応じて、専門診療科にコンサルテーションを実施している。）</p>
■臨床推論・EBM	<p>具体的な体制と方略（外来患者についての症例検討会を週2回昼休みの時間を利用して行っている。ACP Journal Clubの抄読会を週1回実施している。また、UpToDateなどの教育ツールをオンラインで使用できる環境を整えている。夕方のチャートラウンドでは、日常的に臨床推論やEBMの観点について議論している。）</p>
■複数の健康問題への包括的なケア	<p>具体的な体制と方略（複数の健康問題のある患者に対して、院内の専門診療科にコンサルテーションするだけでなく、総合相談室を介して近隣の医療機関、福祉・介護施設と連携して包括的なケアを提供する体制である。）</p>
■診断困難患者への対応	<p>具体的な体制と方略（不明熱や原発不明癌は、総合診療科で担当している。診断困難症例は、外来や病棟で月平均5、6例診療している。外来での診断が困難な症例については、必要に応じて入院での精査を行う。基本的には外来で担当した医師が入院の担当医となる。専門診療科へのコンサルテーション、総合診療科内でのカンファレンス、合同診察、文献検索などで、ほぼ100%の確定診断が可能であるが、対症的対応を迫られることもある。最終的には剖検を行うこともある。）</p>
週当たり研修日数：（ 5 ）日	
総合診療専門研修Ⅱの研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる研修の内容とその日数	
内容	在宅往診、外来研修
日数	1日/週

受付番号		受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定	
------	--	-----	----------	-----	----------	----	--

6-3. 領域別研修：内科			
研修施設名 1	自治医科大学附属さいたま医療センター	病院病床数 (608) 床	診療科名 (総合診療科, 循環器内科, 消化器内科, 神経内科, 膠原病内科, 血液内科, 腎臓内科, 呼吸器内科, 内分泌代謝科)
領域別研修 (内科) における研修期間		(6) カ月	
指導医氏名 1	百村伸一	臨床経験年数 (38) 年	
有する認定医・専門医資格	循環器専門医		
指導医氏名 2	加計正文	臨床経験年数 (37) 年	
有する認定医・専門医資格	糖尿病専門医, 老年病専門医		
指導医氏名 3	三橋武司	臨床経験年数 (30) 年	
有する認定医・専門医資格	循環器専門医		
指導医氏名 4	吉田行雄	臨床経験年数 (36) 年	
有する認定医・専門医資格	消化器専門医, 消化器内視鏡専門医		
指導医氏名 5	小山信一郎	臨床経験年数 (33) 年	
有する認定医・専門医資格	総合内科専門医, 呼吸器専門医, 気管支鏡専門医		
指導医氏名 6	石川三衛	臨床経験年数 (39) 年	
有する認定医・専門医資格	糖尿病専門医, 内分泌代謝専門医		
指導医氏名 7	田部井薫	臨床経験年数 (39) 年	
有する認定医・専門医資格	腎臓病専門医, 透析専門医		
指導医氏名 8	神田善伸	臨床経験年数 (23) 年	
有する認定医・専門医資格	血液専門医		
指導医氏名 9	寺井千尋	臨床経験年数 (36) 年	
有する認定医・専門医資格	リウマチ専門医		
指導医氏名 10	尾本きよか	臨床経験年数 (26) 年	
有する認定医・専門医資格	総合内科専門医, 超音波専門医		
指導医氏名 11	崎山快夫	臨床経験年数 (16) 年	
有する認定医・専門医資格	神経専門医		
指導医氏名 12	菅原 斉	臨床経験年数 (29) 年	
有する認定医・専門医資格	総合内科専門医, 循環器専門医, 老年病専門医		
要件 (各項目を満たすとき, □を塗りつぶす (■のように))			
ケアの内容			
■病棟診療：病棟での主治医として主に内科疾患 (総合診療, 循環器, 消化器, 神経, リウマチ, 血液, 腎臓, 呼吸器, 内分泌代謝) の急性期患者の診療を幅広く経験する。各内科系専門診療科に所属し, 専門研修を実施することも可能である。			
施設要件			
■医師法第 16 条の 2 および関係省令で定める基幹型または協力型臨床研修病院である。			
■内科病床数が 50 床以上ある。 (200) 床			
■内科常勤医が 5 名以上いる。 (80) 名			
■後期研修プログラムの認定に関する細則第 9 条(5)に定める指導医が病院全体として 3 名以上いる。 (5) 名			
週当たり研修日数：(5) 日			

受付番号		受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定	
------	--	-----	----------	-----	----------	----	--

領域別研修（内科）の研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる研修の内容とその日数	
内容	外来研修, 在宅往診研修
日数	1日/週

受付番号		受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定	
------	--	-----	----------	-----	----------	----	--

6-4. 領域別研修：小児科							
研修施設名 1	自治医科大学附属さい たま医療センター		病院病床数（ 60 ）床		診療科名（ 小児科 ）		
領域別研修（小児科）における研修期間			（ 3 ）カ月				
指導医氏名 1	市橋 光		有する専門医資格（日本小児科学会認定専門医，日本超音波医学会指導 医・専門医，日本小児神経学会認定小児神経専門医，日本小児循環器学 会専門医 ）				
要件（各項目を満たすとき，□を塗りつぶす（■のように））							
ケアの内容							
■外来診療：指導医の下で初診を数多く経験し，小児特有の疾患を含む日常的に遭遇する症候や疾患の対応を経験する。							
■救急診療：指導医の監督下で積極的に救急外来を担当し，軽症，1次救急を中心に経験する。							
■病棟診療：日常的に遭遇する疾患の入院診療を担当し，外来・救急から入院に至る流れと基本的な入院ケアを学ぶ。							
施設要件							
■小児領域における基本能力（診断学，治療学，手技等）が修得できる。							
■小児科常勤医がいる。（ 13 ）名							
週当たり研修日数：（ 5 ）日							
領域別研修（小児科）の研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる研修の内容とその日数							
内容	外来研修，在宅往診研修						
日数	1日/週						

受付番号		受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定	
------	--	-----	----------	-----	----------	----	--

6-5. 領域別研修：救急科			
研修施設名 1	自治医科大学附属さいたま医療センター	病院病床数 (20) 床	年間救急搬送件数 (6000) 件
指導医氏名 1	八坂 剛一	有する専門医資格(救急医学会専門医)	専従する部署(救急部)
ブロック研修, 兼任研修のいずれかを選択し, □を塗りつぶす (■のように)			
<input checked="" type="checkbox"/> ブロック研修 → 領域別研修 (救急科) における研修期間 (3) カ月 <input type="checkbox"/> 兼任研修 → どの研修と組み合わせるか () 週あたり研修日数 () 日, 研修期間 () カ月 ※兼任研修の場合, 「5. 概要」の「H. プログラムの全体構成」の記載との整合性を保つこと			
要件 (各項目を満たすとき, □を塗りつぶす (■のように))			
ケアの内容			
■救急診療: 内科系だけでなく, 外科系・小児を含む全科の主に軽症から中等症救急疾患の診療を経験する.			
施設要件 (下記のいずれかを満たす)			
■救命救急センターもしくは救急科専門医指定施設			
□救急科専門医等が救急担当として専従する一定の規模の医療機関 (救急搬送件数が年に 1000 件以上)			
週あたり研修日数: (5) 日			
領域別研修 (救急科) の研修期間中に週 1 回などのペースで並行して行われる研修の内容とその日数			
内容	外来研修, 在宅往診研修		
日数	1 日/週		

受付番号		受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定	
------	--	-----	----------	-----	----------	----	--

6-6. 領域別研修：その他						
研修領域	必修・ 選択別	ブロック・ 兼任の別	研修日数/週 (兼任の場合)	研修期間	研修施設名と 診療科名	指導医氏名
一般外科	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	<input checked="" type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	(5) 日/週	(1-2) カ月	自治医科大学附属さいたま医療センター外科	力山敏樹
整形外科	<input checked="" type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	<input checked="" type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	(5) 日/週	(2) カ月	自治医科大学附属さいたま医療センター整形外科	税田和夫
精神科/ 心療内科	<input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	() 日/週	() カ月		
産科婦人科	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	<input checked="" type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	(5) 日/週	(1-2) カ月	自治医科大学附属さいたま医療センター産科婦人科	今野 良
皮膚科	<input checked="" type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	<input checked="" type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	(5) 日/週	(1) カ月	自治医科大学附属さいたま医療センター皮膚科	出光俊郎
泌尿器科	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	<input checked="" type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	(5) 日/週	(1-2) カ月	自治医科大学附属さいたま医療センター泌尿器科	宮川友明
眼科	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	<input checked="" type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	(5) 日/週	(1-2) カ月	自治医科大学附属さいたま医療センター眼科	梯 彰弘
耳鼻咽喉科	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	<input checked="" type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	(5) 日/週	(1-2) カ月	自治医科大学附属さいたま医療センター耳鼻咽喉科	飯野ゆき子
放射線科 (診断・撮影)	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	<input checked="" type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	(5) 日/週	(1-2) カ月	自治医科大学附属さいたま医療センター放射線科	田中 修
臨床検査・ 生理検査	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input checked="" type="checkbox"/> 兼任	(1) 日/週	(3-6) カ月	自治医科大学附属さいたま医療センター臨床検査部	尾本きよか
リハビリ テーション	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	<input checked="" type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	(5) 日/週	(1-2) カ月	自治医科大学附属さいたま医療センターリハビリテーション部	草鹿 元
その他 (集中治療部)	<input checked="" type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	<input checked="" type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	(5) 日/週	(2) カ月	自治医科大学附属さいたま医療センター集中治療部	讚井将満

受付番号		受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定	
------	--	-----	----------	-----	----------	----	--

7. 後期研修医の評価方法（研修修了認定の方法も含めて、評価計画等具体的に）

月1回の振り返り、ポートフォリオ記載のサポートを行う。
外来診療は、mini-Clinical Evaluation Exercise (mini-CEX)短縮版臨床評価表で評価する。
入院診療について、退院要約の記載内容を形成的に評価する。
学会での症例発表、症例報告の執筆する。
各診療科の指導医、病棟師長、病棟医長に形成的評価を依頼する。
指導医から構成される研修管理委員会で、研修修了の総合判定をおこなう。

8. プログラムの質の向上・維持の方法

日本プライマリ・ケア連合学会主催の指導医講習会に最低年1回参加する。
研修医からのプログラム評価によって、プログラム内容の改善に取り組む。
他の家庭医療後期研修プログラム実施医療機関との意見交換、サイトビジットを行う。
各研修を担当する指導医と定期的に意見交換を行う。